

# クビアカツヤカミキリ被害対策の手引書（改訂版）

（行政担当者・施設管理者の皆様へ）



2019年7月

地方独立行政法人  
大阪府立環境農林水産総合研究所

# はじめに

サクラ、モモ、ウメなど主にバラ科の樹木に発生し枯死させるクビアカツヤカミキリの被害が大阪府内でも確認されています。そこで、(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所は、府内の発生状況を調査するとともに、初期対策等について検討してきました。

クビアカツヤカミキリの防除は、サクラ等のバラ科の樹木が植栽されている公園、道路、学校等の施設、山林や民有地、あるいはモモ等の果樹園において、管理者らが一致協力し、また地域住民などの協力も得ながら、外来生物法を遵守した上で対策に取り組むことが重要です。

今回、バラ科の樹木をお持ちの方々が積極的かつ効率的に防除に取り組んでいただけるよう、技術的な対策手法等を手引書として取りまとめました。本手引書を活用いただき、クビアカツヤカミキリの被害を抑えることができれば幸いです。

## Topic1 特定外来生物に指定されて

クビアカツヤカミキリは、2018年1月に「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」による特定外来生物に指定されました。これにより、飼養、保管、運搬、輸入、野外への放出などが原則禁止となります。

特定外来生物は、防除対策をとらず放置しておくことと分布を拡大し、農林水産業等に被害を及ぼすおそれがあることから、必要に応じて駆除することとされています。また、被害木の枯損や落枝等が発生しないよう配慮が必要です。

### <本手引書の内容>

1	クビアカツヤカミキリはサクラやモモの害虫	.....	P2
2	対策とスケジュール	.....	P3
	(1) 被害状況を調べる	.....	P4
	(2) 農薬に頼らない防除	.....	P6
	(3) 農薬による防除	⇒ 改訂 .....	P7-13
	(4) 被害木の伐採と処分	⇒ 改訂 .....	P13
	(5) 若木への植替え	.....	P15
	(6) 住民への調査・防除の協力の呼びかけ	.....	P16
	(7) 被害マップの作成・更新	.....	P16
3	問い合わせ先	.....	P17

# 1 クビアカツヤカミキリはサクラやモモの害虫 【知ろう】

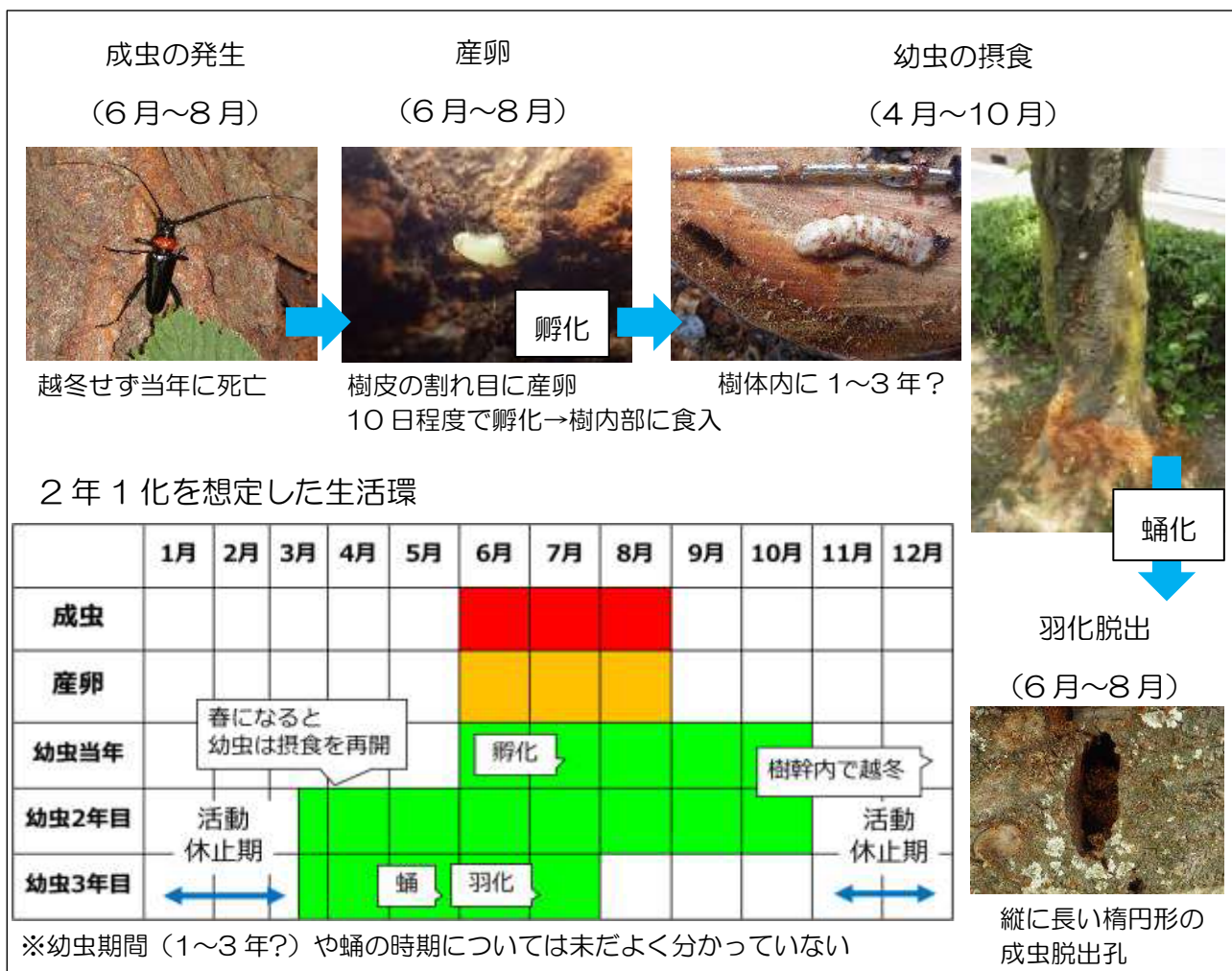
クビアカツヤカミキリ (学名:*Aromia bungii*)

- ・分類：コウチュウ目・カミキリムシ科
- ・分布：中国、朝鮮半島、ベトナムなど
- ・被害樹種：サクラ、モモ、ウメなどバラ科樹木  
生きている樹木を加害し枯らす
- ・体長：2～4cm (成虫)
- ・特徴：からだ全体が黒く光沢がある  
頭部の下(前胸の一部)が赤く、突起がある  
成虫はジャコウのような匂いを放つ



触角が長いオス・短いメス

## クビアカツヤカミキリの生活環







## (1) 【見つけよう】被害状況を調べる

クビアカツヤカミキリの被害は、生きている樹木の幹や根から幼虫が排出するフラス（木くず・糞の混合物）の特徴①～③により、概ね判断することができます。



バラ科樹木には、クビアカツヤカミキリ以外にコスカシバ等のスカシバガ類やゴマダラカミキリが穿孔しフラスを排出します。

スカシバガ類のフラスの特徴は、  
顆粒状で、少量です。



クビアカツヤカミキリのフラスの特徴は  
薄く削り取られたフラスが大半です。

ゴマダラカミキリのフラスの特徴は、  
主に地際から排出され、長い繊維状に裂  
けたフラスが多く混ざります。



## Topic2 大阪府内及び日本国内における被害状況

### 大阪府内

平成 29 年 7 月～10 月に南河内地域を中心にフラス排出の有・無から被害状況を調査し、5 市 1 町で本種によるとみられる被害を確認しました（左図）。

令和元年（6 月末時点）には平成 29 年と同様の調査と市町村からの被害報告により、新たに 3 市 1 町 1 村での被害を確認しました。（右図）

平成 29 年



大阪狭山市、堺市、富田林市  
羽曳野市、河内長野市、河南町

令和元年 6 月末時点



大阪狭山市、堺市、富田林市  
羽曳野市、河内長野市、河南町、**大阪市**  
**太子町、千早赤阪村、藤井寺市、柏原市**

### 日本国内

平成 30 年時点では、以下の 1 都 1 府 5 県で被害が報告されています。（右図）

平成 24 年 愛知県

平成 25 年 埼玉県

平成 27 年 大阪府、群馬県、東京都、徳島県

平成 28 年 栃木県



## (2)【対策しよう】農薬に頼らない防除

### ①成虫の捕殺

成虫は見つけ次第捕殺します。

- ・時期：6月～8月（発生ピークは6月中旬～7月中旬）

### ②幼虫の刺殺

樹幹や根から排出するフラスを掻き出し、幼虫が食入してできたトンネル（以下、坑道）内の幼虫を長い針金などで刺殺します。ただし、幼虫は樹幹内を不規則な方向に食べ進むため、坑道が曲がりくねって針金が届かないこともあります。

- ・時期：4月～10月（フラス排出期）
- ・必要な物品：千枚通し、針金、硬めのブラシ（できれば金属製ブラシ）など

### ③防風・防虫ネット利用による分散防止

防風ネット等を樹幹に巻き付けて樹から脱出した成虫を殺虫し、ほかの樹への移動を防ぎます。

- ・時期：防風ネット等の巻き付け作業は10月～翌5月（成虫の発生前まで）に行い、6月～8月に成虫を殺虫します。
- ・必要な物品：防風・防虫ネット（目合い0.4～4mm程度、幅1～2m、例えば、農業用防風ネット等市販品で良い）、針金、ひも、ペグなど
- ・高さ2m程度まで巻き付け、針金やひもで固定します。防風ネットを樹幹に密着させると成虫が防風ネットを噛み切るので、防風ネットを二重にして、樹幹との間に余裕を持たせます。根元に生息することもあるので、根元の防風ネットはペグで固定します。





防風ネット巻き付けの詳しい手順は、当研究所のホームページ  
[http://www.kannousuikenosaka.or.jp/portal\\_info/doc/2018020500033/](http://www.kannousuikenosaka.or.jp/portal_info/doc/2018020500033/)  
にある動画「クビアカツヤカミキリについて知ろう～ネット巻き編～」をご覧ください。

＊注意＊ 防風ネット内で成虫が交尾・産卵したり、隙間から脱出したりするため、定期的に見回り、見つけ次第ハンマーや針金など（できるだけネットを傷つけない方法）で殺虫します。また、ネット内への産卵は抑制できないため、8月中旬～9月には防風ネットを除去し、被害樹に農薬を処理します。

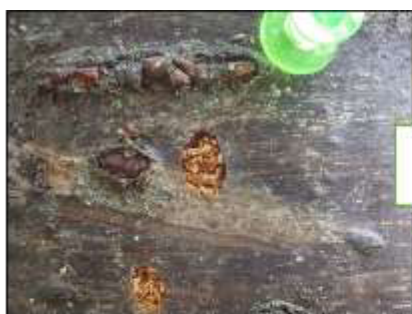
### （３）【対策しよう】農薬による防除（２０１９年６月２８日現在）（改訂）

＊注意＊ 農薬を使用する際は使用基準（「適用作物」、「使用方法」、「使用量および希釈倍数」、「使用時期」、「総使用回数」）を遵守する必要があります。違反の場合は農薬取締法により罰則が科せられるため、農薬ラベルをよく読んで使用します。

#### ①化学農薬による防除

##### 【幼虫の防除（食入孔に薬剤を注入）】

- 必要な物品：千枚通しや硬めのブラシ（できれば金属製ブラシ）、ゴーグル、マスク、ゴム手袋、防除衣（雨合羽など）、噴霧器など
- 農薬使用時はゴーグルやマスクなどを着用します。
- 幼虫のフラス排出期の４～１０月に処理します。
- 樹幹や根から排出するフラスを掻き出し、食入孔（木くず排出孔）に薬液を注入して樹内の幼虫を殺虫します。



（１）食入孔を探す  
樹幹や根から排出するフラスをブラシなどで除いて探す。見つからない場合はフラスが落ちている場所の上部をこまめに探す。



（２）フラスを掻き出す  
食入孔にフラスが詰まっていると薬液が幼虫まで届かないため、千枚通しなどで掻き出す。



（３）薬液を注入する  
食入孔にノズルを差し込み、噴射する。薬液を食入孔に充満させるため、食入孔から薬液が少しあふれるまで噴射する。



※※登録農薬※※

◆ロビンフッドまたはベニカカミキリムシエアゾール

有効成分はフェンプロパトリン 0.02% ピレスロイド系 (IRAC コード 3A)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
樹木類 (サクラを含む)	加刺虫類	—	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	—	6回以内
もも、うめ、おうとう				収穫前日まで	5回以内
果樹類(※を除く)					

※：かんきつ、りんご、なし、びわ、もも、うめ、おうとう、ぶどう、かき、マンゴー、いちょう(種子)、くり、パカン、アーモンド、くるみ、食用つばき(種子)

◆園芸用キンチョールE (サクラのみ)

有効成分はペルメトリン 0.2% ピレスロイド系 (IRAC コード 3A)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
サクラ	クビアカ ツヤカミキリ	—	【専用ノズルつけかえ方式】 容器の外側を引き抜き、専用ノズルにつけかえ、食入部にノズルを差し込み、薬剤が食入部から流出するまで噴射する。 【2ウェイノズル方式】 折り畳まれた専用ノズルを引き上げ、食入部にノズルを差し込み、薬剤が食入部から流出するまで噴射する。	—	—

◆マツグリーン液剤2 (サクラのみ)

有効成分はアセタミプリド 2.0% ネオニコチノイド系 (IRAC コード 4A)


作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
サクラ	クビアカ ツヤカミキリ	50倍	食入孔に注入	発生初期	5回以内

◆アクセルフロアブル (サクラのみ)

有効成分はメタフルミゾン 25.0% セミカルバゾン系 (IRAC コード 22B)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
サクラ	クビアカ ツヤカミキリ	100倍	木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入	—	6回以内

※マツグリーン液剤2 とアクセルフロアブルは、スプレー缶で薬液を注入するタイプではなく、所定の濃度に希釈した農薬を噴霧器等で注入します。

【幼虫の防除（樹幹に開けた穴に薬剤を注入）※サクラのみ】  改訂

- 必要な物品：ゴーグル、マスク、ゴム手袋、メジャー、電動ドリル、傷口癒合剤（薬液注入穴を蓋する資材）
- 農薬使用時はゴーグルやマスクなどを着用します。
- サクラの新葉展開後から落葉まで（4月下旬～10月上旬）に処理します。
- 樹幹の地際部に注入穴を開け、木の大きさに応じた規定量の薬液を注入します。注入した薬液が樹体に浸透したことを確認し、注入穴を傷口癒合剤等でふさぎます。
- 幼虫は吸い上げられた薬剤を含んだ木質部を摂食することで死亡します。



(1) 木の大きさを測定する  
根元の樹幹部直径等をメジャーで測定し、使用薬液量（や薬液注入穴の数）を決める。

(2) 地際に薬液注入穴を作成する  
樹幹の地際に電動ドリルで薬液量に応じた数の注入穴を、樹体の斜め下向きに開ける。腐朽した部位は薬液の浸透が悪いので避ける。

(3) 薬液を注入し穴をふさぐ  
注入穴に規定量の薬液を注入する。薬液が樹体内に浸透したことを確認し、注入穴を傷口癒合剤等でふさぐ。

※写真(3)は「ウッドスター」の場合で、ウッドスター専用の薬液注入器を用いて注入する。

「アトラック」の場合は、薬液が入っているアンプルを注入穴に差し込み注入する。

※※登録農薬※※

◆ウッドスター（サクラのみ）


有効成分はジノテフラン 8.0% ネオニコチノイド系（IRACコード4A）

作物名	適用害虫名	使用量（樹当たりの薬液注入量）	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
サクラ	クビアカツヤカミキリ	注入部直径 6cm～10cm:8～12ml、10cm～20cm:12～24ml、20cm～30cm:24～36ml、30cm～40cm:36～48ml、40cm～50cm:48～60ml、50cm～60cm:60～72ml、以降、直径が10cm増す毎に12mlを追加する	樹幹注入	新葉展開後～落葉前まで	3回以内

◆アトラック液剤（サクラのみ）

有効成分はチアメトキサム 4.0% ネオニコチノイド系（IRACコード4A）

作物名	適用害虫名	使用量（樹当たりの薬液注入量）	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
サクラ	クビアカツヤカミキリ	胸高直径（樹幹部） 6cm～10cm 30ml、11cm～15cm 60ml、16cm～20cm 90ml、21cm～25cm 120ml、26cm～30cm 180ml、30cm以上は胸高直径が5cm増すごとに30～60mlを増量する	樹幹注入	幼虫発生前～幼虫発生期	3回以内

【成虫の防除（樹に薬剤を散布）】  改訂

- 必要な物品：ゴーグル、マスク、ゴム手袋、防除衣（雨合羽など）、バケツ、噴霧器
- 農薬使用時はゴーグルやマスクなどを着用します。
- 成虫発生直前から成虫発生期（6月上旬～8月下旬）に複数回処理します。  
調整希釈した薬液を樹に丁寧に散布します。

※※登録農薬※※

◆マツグリーン液剤2（サクラのみ）

有効成分はアセタミプリド 2.0% ネオニコチノイド系（IRAC コード 4A）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
サクラ	クビアカ ツヤカミキリ	200倍	散布	発生初期	5回以内

◆モスピラン顆粒水溶剤・日農モスピラン顆粒水溶剤

有効成分はアセタミプリド 20.0% ネオニコチノイド系（IRAC コード 4A）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
サクラ	クビアカ ツヤカミキリ	2000倍	散布	発生初期	5回以内
もも、うめ、すもも、 小粒核果類（うめ、すももを除く）				収穫前日まで	3回以内

◆アクセルフロアブル

有効成分はメタフルミゾン 25.0% セミカルバゾン系（IRAC コード 22B）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
サクラ	クビアカ ツヤカミキリ	1000倍	散布	成虫発生直前～成虫発生期	6回以内
うめ				収穫前日まで	3回以内

◆スミパイン乳剤

有効成分は MEP80.0% 有機リン系（IRAC コード 1B）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
樹木類	カミキリムシ類 （スギカミキリを除く）	50～150倍	樹幹散布	成虫の発生初期 又は直前	6回以内
樹木類 （倒木、伐倒木）			散布	伐倒・風倒直後樹皮 下及び材内生息期	



◆スプラサイド水和剤

有効成分は DMTP36.0% 有機リン系 (IRAC コード 1B)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
うめ、すもも	クビアカ ツヤカミキリ	1500倍	散布	収穫14日前まで	2回以内
もも				収穫21日前まで	

◆スプラサイド M

有効成分は DMTP30.0% 有機リン系 (IRAC コード 1B)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
もも	クビアカ ツヤカミキリ	200倍	樹幹部及び主枝に散布	収穫60日前まで	2回以内

◆アクタラ顆粒水溶剤

有効成分はチアメトキサム 10.0% ネオニコチノイド系 (IRAC コード 4A)


作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
もも、ネクタリン	クビアカ ツヤカミキリ	2000倍	散布	収穫前日まで	3回以内
おうとう					2回以内
うめ、小粒核果類 (うめを除く)				収穫7日前まで	

◆テッパン液剤

有効成分はシクラニリプロール 4.5% ジアミド系 (IRAC コード 28)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
もも、すもも	クビアカ ツヤカミキリ	2000倍	散布	収穫前日まで	2回以内

②生物農薬による防除

【幼虫の防除 (食入孔に薬剤を注入)】  改訂

- 必要な物品：ゴーグル、マスク、ゴム手袋、防除衣 (雨合羽など)、噴霧器
- 農薬使用時はゴーグルやマスクなどを着用します。

※※登録農薬※※

◆バイオセーフ

スタイナーネマ・カーポカプサエ剤 (線虫製剤)

- 幼虫のフラス排出期である4～10月に処理します。
- 薬剤を注入する前に、食入孔の木屑を水で洗浄除去します。薬剤を隣接する食入孔

から溢れ出すまで十分量を注入することで、樹内の幼虫を殺虫します。

- ・ 生きている線虫を使った製剤です。乾燥や高温は線虫の活性の低下を招くため、処理時は曇天が望ましいです。入手後すぐに使用しない場合は、冷蔵庫で保管します。

作物名	適用害虫名	使用量	使用液量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
サクラ、食用サクラ（葉）、うめ、もも	クビアカ ツヤカミキリ	2500万頭 （約10g）	25L	木屑排出孔を中心に 薬液が滴るまで樹幹注入	幼虫 発生期	—



(1) フラスを掻き出す  
食入孔に詰まっている木屑を水で洗浄除去する。逆流する水にフラスが含まれなくなるまで行う。



(2) 農薬の濃度を調整する  
農薬の濃度がラベル通りになるように水で希釈する。乾燥や高温の条件下では線虫の効果が落ちるので使用はさける。



(3) 薬液を注入する  
食入孔に噴霧器の先端部を差し込み、薬液を注入する。隣接する排出孔から溢れ出すまで十分量を注入する。

#### 【成虫の防除（樹幹への殺虫資材の巻き付け）】

- ・ 必要な物品：ゴーグル、マスク、ゴム手袋、ホッチキス
- ・ 農薬使用時はゴーグルやマスクなどを着用します。

＊＊登録農薬＊＊

#### ◆バイオリサ・カミキリ スリム（昆虫病原性糸状菌製剤）

有効成分は、ポーベリア ブロンニアティ  $1 \times 10^7$  cfu/cm<sup>2</sup>

昆虫病原性糸状菌が付着した不織布を樹幹の分枝部分等にかけて設置します。

成虫が触れることで感染し、約2～3週間で死亡させます。

- ・ 成虫発生初期の大阪府内では例年6月上～中旬に設置します。
- ・ サクラおよび食用サクラ（葉）に使用する場合は、本剤を樹の太さに合わせて切断および接着させて、樹幹の地際からの高さ20～50cmの位置に巻き付けます。
- ・ 感染していても死亡までに2～3週間を要し、その間に成虫は交尾・産卵するので、成虫を見つけ次第捕殺します。
- ・ 生きている菌を使った製剤なので、入手後すぐに使用します。

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
サクラ 食用サクラ（葉）	クビアカ ツヤカミキリ	—	1樹あたり 1本	主幹または主幹の 分枝部分に巻き付ける	成虫発生 初期	—
果樹類	カミキリムシ類		1樹あたり 1本	地際に近い主幹の 分枝部分等にかける		



イチジクでの使用例



感染致死したキボシカミキリ

### Topic3 特定外来生物の防除対策に係る交付金事業の概要について

環境省は、「生物多様性保全推進支援事業」により、地域における生物多様性の保全再生に資する活動等に対し、活動等に必要経費の一部（1 / 2 以下）を交付しています。特定外来生物防除対策（単なる伐採ではなく、対象種の防除を行うもの）も交付対象メニューとなっています。例年、1～2月頃に募集が行われますので、活用を検討してください（年度ごとに事業の有無を環境省にご確認ください）。

なお、応募のあった事業の中から予算の範囲内で採択する事業が決定されますので、全ての事業に対して交付されるものではないとのことです。

#### （4）【防除しよう】被害木の伐採と処分（改訂）

被害木を伐採し破砕あるいは焼却し適切に処分を行うことは、被害の拡散を防止する観点から有効な防除方法のひとつです。被害を受け枯死・衰弱した木は、強風などにより倒木・落枝が発生しやすくなることから早期に伐採することを検討ください。

- ・ 伐採時期： 9月～翌年4月（成虫の脱出時期以外）
- ・ 伐採木の処理：破砕、焼却





・留意事項：

- 飛び地的にフラス被害が確認された被害木は、周辺への被害拡散の可能性を考慮し、直ちに伐採し破碎もしくは焼却を検討してください。ドイツでは、発生初期に伐採や処理を徹底することで被害拡散の防止に一定の成果をあげています。

- 「外来生物法」は指定された種の保管や運搬等を禁止していますが、クビアカツヤカミキリの運搬及び保管については、環境省から通知「外来生物法の規制に係る運用（クビアカツヤカミキリの運搬及び保管）」([https://www.env.go.jp/nature/intro/1law/files/190326kubiaka\\_tsuuchi.pdf](https://www.env.go.jp/nature/intro/1law/files/190326kubiaka_tsuuchi.pdf))が発出されていますので、被害木を処分する前に内容を必ずご確認ください。

- 伐採木は、以下のいずれかの方法で処理してください。

①破碎

現地でチップパーにより破碎、又は近隣のチップ工場で破碎してください。チップの厚さは10mm以下程度としてください。

②焼却処分

市町村の清掃工場で焼却可能な場合は、伐採木を防風ネット又はビニールシートで覆って飛散防止措置をした上で運搬し、焼却処分してください。

③シート被覆

直ちに破碎又は焼却処分を行うことが困難な場合は、伐採木を防風ネット又はビニールシートで覆い、地際部をペグ等で密閉してください。

- 伐採と同時に伐根可能な場合は伐根し、上記①または②の処分をしてください。伐根できない場合、切株を防風ネットで覆い、上部をさらにビニールシートで二重に被覆してください（3年程度）。



・伐採木の破碎  
伐採木をチップパーなどを用いて、厚さ10mm以下を目安としてチップ化する。



・運搬前の伐採木の被覆  
伐採木を防風ネット又はビニールシートで覆って飛散防止措置をした上で運搬する。



・伐採後の根株の被覆  
根株を防風ネットで覆い、上部をさらにビニールシートで二重に被覆する。

## Topic4 被害を受けてから何年で枯れるのか

「何年で」枯れると一概に言うことはできないようです。

サクラに関しては、大阪府内の被害地において、被害を受けた木について調べたところ、成虫脱出孔数と根元周（≡幹の太さ）の組み合わせによって枯れやすさに傾向が見えています。

具体的には、幹が太い木は、多くの穿孔被害（成虫脱出孔数）があっても枯れにくい傾向にあります。一方で、太い木の方が被害を受けやすい傾向も見えています。

モモに関しては、サクラと同様に太い木の方が被害を受けやすい傾向が見られるものの、細い枝にも多数の穿孔被害が見られ、総じてサクラより早く枯れる印象があります。

大切な樹木を守るためには、早期発見、早期防除が第1歩です。

### （5）【再生しよう】若木への植替え

被害地の回復を図るためには、若木への植替えを行うことを検討ください。

同じ種類の若木を植えた場合、再び被害を受ける可能性があるため、継続した防除対策が必要となります。そのため、クビアカツヤカミキリ対策の手間やコストがかけられない場合は、被害を受けない植物（バラ科以外）への植替えも検討しましょう。

- 植付け時期：厳寒期を除く落葉期（12月～3月頃）
- 留意事項：若木の成長促進や連作障害を避けるため、土壌の深耕や土壌改良資材の投与についても検討ください。



図 被害木の伐採～若木への植替えのイメージ

## (6) 【再生しよう】 住民への調査・防除の協力の呼びかけ

対策にあたっては、学校や公園、各個人の敷地での成虫の捕殺や見回りなど地域の住民の協力を得ながら取り組むことが効果的です。

公園等の施設においては、ネット巻きした樹木に捕らえられた成虫を逃がしたり、持ち帰ったりしないよう来訪者等への広報も重要です。

### ・留意事項：

- 特定外来生物は飼育等が禁止されているため、住民が捕獲した成虫等を回収・殺虫するための受け入れが想定される場合は、外来生物法における飼養等許可か防除の確認を受ける必要があります。



飼育せずすぐに捕殺する!!

## (7) 【再生しよう】 被害マップの作成・更新

防除対策を計画的に進める上では、「どこに、どれだけいるか」という被害マップを作成・更新することが効果的です。

視覚的に被害状況を把握することで、例えば、飛び地的に被害が発生した地区の対策を優先するなど、計画的な防除が行いやすくなります。



### 3 問い合わせ先

クビアカツヤカミキリについてのお問い合わせは、下記までお願いします。

【外来生物法・特定外来生物に関すること】

環境省 近畿地方環境事務所 野生生物課

電話：06-4792-0706

大阪府 環境農林水産部 みどり推進室 みどり企画課 総務・自然環境グループ

電話：06-6210-9557

【農地や果樹園での被害に関すること】

大阪府 環境農林水産部 農政室 推進課 病害虫防除グループ

電話：072-957-0520

【輸出入（植物検疫）に関すること】

農水省 神戸植物防疫所 大阪支所 輸出及び国内検疫担当

電話：06-6571-0804

【本手引書に記載の内容等に関すること】

地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 食と農の研究部 防除グループ

電話：072-979-7037

地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 環境研究部 自然環境グループ

電話：072-833-2770